こんな時

どうしたらいいでしょう？

○○さん、**結核疑い**

だそうです!!

ある日、ある高齢者施設で…

**高齢者介護に関わる人の**

**ための “結核” 基礎知識**

　現在１年間に約1万１千人の結核患者が

新たに診断されており、その約７割は

60歳以上です。



<https://www.pref.osaka.lg.jp/o100050/iryo/osakakansensho/kekkaku.html>

**高齢者介護に関わるあなたと**

**あなたの大切な人の**

**“健康を守る”ために**

職員の定期健康診断

・少なくても年に１回は胸部X線検査を

受けましょう。精密検査の通知が来たら、

自覚症状がなくても必ず受診しましょう。

・健診結果は、今後の健康管理に大切な情報

です。結果を保管しておきましょう。

咳エチケット

・咳が出る時は、サージカルマスクを着用

しましょう。

まずは自分の身体をいたわりましょう

・身体の免疫力を維持し、風邪等の症状が

続く時は、早めの受診を心がけましょう。

・免疫が低下する疾患（糖尿病、腎疾患、

HIV等）がある時は、確実に治療を継続

しましょう。

・結核について勉強する機会を持ちましょう。

結核に関する心配や不安がある時は

保健所に相談しましょう。

＜結核について～大阪府ホームページ＞

この資料は平成28 年度国立研究開発法人日本医療研究開発機構委託研究

　開発費「地域における結核対策に関する研究」により作成されました。

**高齢者の結核を**

**早期発見するには？**

サービス利用開始時の健康チェック

・２週間以上続く呼吸器症状（咳、痰など）

や胸部X線写真に異常陰影がある時には、

かかりつけ医や施設の嘱託医に喀痰検査等

の必要性を確認しましょう。

・健康管理のための情報として、結核等の

既往歴や治療中の病気を確認しましょう。

定期健康診断時の健康チェック

・結核の早期発見のためにも、定期健康診断

を活用しましょう。

・「高齢者は結核のハイリスク者」であり、

健診が義務ではない施設も、定期的な健康

チェックが大切です。

日常的な健康観察

・高齢者結核では咳や痰がでない割合も高く

継続する体調不良や免疫低下にからむ症状

など、日常の健康観察がとても大切です。

* なんとなく元気や活気がない
* 発熱、食欲不振、体重減少、倦怠感、

尿路感染（免疫低下）

* 咳、痰、胸痛、呼吸のしづらさ

・肺炎疑いでも、できれば抗生剤を使用する

前に、喀痰検査の実施を嘱託医に相談しま

しょう。また、抗生剤の使用状況を記録に

残しておきましょう。

・患者や施設医療機関から情報収集

・接触者健診の対象者と方法を決定

・接触者健診の実施

・結核の診断

・保健所への届出

保健所

医療機関

**接触者健診について**

目的

・患者からの感染や発病の有無などを調べ、

結核の感染拡大を防止します。

基本的な流れ

・保健所は届出により、患者の病状や生活、

患者と接した方の健康状態等を確認して、

必要な対象者に、無料で健診を行います。

主な検査

・原則として、結核の“感染”を血液検査で、

“発病”を胸部X線検査で調べます。

実施時期など

・施設の定期健診状況なども検討し、適切な

時期に行います。

・必要により、保健所と施設が協力して、

健診の前に説明会を行うこともあります。

・結核に感染した後、検査で感染がわかる

ようになるまで、３か月ほどかかります。

・あわてて検査をすると正確な結果が得られ

ないこともありますので、保健所と連絡を

取りましょう。

**利用者が結核(疑い)と**

**診断されたら**

マスクの着用と個室対応

結核（疑い）の方 入院や検査結果を施設で

待つ間は、サージカルマスクを着用して

もらい、個室対応でドアは閉めましょう。

職員や家族等 個室へ入る時はN95マスク

を着用し、乳児等の面会は禁止します。

車で搬送する時

・結核（疑い）の方は、サージカルマスクを、同乗者はN95マスクを着用します。

・窓を開けて換気をしましょう。

部屋の清掃など

・部屋の窓を開けて換気を十分行いましょう。

・薬剤等による消毒は不要です。通常の掃除

や洗濯、食器洗いを行えば大丈夫です。

＜N95マスク＞ 結核の感染防止のため職員

や家族がつけるマスクです。すぐ、使えるように常備し、着用訓練をしておきましょう。



～結核の発病は誰のせいでもない～

・突然、結核（疑い）と言われ、動揺する方も 多いため、周囲のサポートが不可欠です。

**結核とは**

結核とは、結核菌によっておこる感染症です。

感染のしくみ（空気感染）

・主に肺結核患者の咳などのしぶきと共に

排出される菌を吸い込むことで感染します。

感染とは

・結核菌が身体の中に入り、それに対する

身体の反応が起こっている状態です。

発病とは

・菌が増殖し、何らかの身体の変化や症状が

出てくる状態です。

・結核の発病率は、感染者の1～２割です。

・発病は、身体に入った菌の量や強さと、

感染者の免疫などが関係します。

＜免疫の維持＞ バランスの良い食事、適度な 運動、十分な睡眠、禁煙、免疫が下がる疾患

（糖尿病、腎疾患等）の治療と管理が大切です。

症状

* 咳、痰、微熱、胸痛、体重減少等

特徴

・「よくなったり、悪くなったり」しつつ

病状が進行し、排菌するようになります。

・排菌をしていない感染状態や発病の初期

には、人にうつすことはありません。

治療と施設での服薬支援

・原則として、6か月以上の定められた期間、

複数の薬を内服します。確実な内服のため

周囲の方の支援が重要となります。